

※ 評価基準 A:十分に実践されている、B:ある程度実践されている、C:不十分である、D:わからない

教育目標	「学園は、教える者と教えられる者とが、相互の信頼によって相互に生かされる精神的な共同体」という理念の下、知・徳・体を錬成し、調和ある人間像を確立する。					
経営方針	「自律的な精神」、「思考力と創造的な知性と技量」「自然愛や人間愛を大切にす豊かな情操」を培う。また、日本人としての美德を育て、実践的な社会性を養うとともに、国際化・情報化社会のフロントランナーとして、社会貢献できるフェアなリーダーとしての資質を培う。					
本年度重点目標	I 学習指導の充実      II 進路指導の充実      III 心豊かでさわやかな生徒の育成      IV 広報・渉外活動の充実      V 教育施設・設備の活用					
重点目標	評価項目	具体的な方策または評価項目を評価する具体的な指標 【 】は数値的目標	27年度実施結果(成果は○、改善すべき事項は◇) ※丸数字は左欄丸数字の項目に対応	自己評価	学校関係者評価	備考 (学校関係者の意見、提言等)
I 学習指導の充実	授業改善への取り組み	①生徒の学習意欲が高まるような分かる授業を 実践するとともに授業改善に努める。  【生徒の授業満足度(満足+どちらかといえば満足の比率)95%】 【信頼できる先生がいる(そう感じる比率)82%】 【授業満足度(生徒)と自己考査(教員)を年4回実施】 ②普通科と英数科間、各クラス間、各教員間の 指導の格差を改善し、指導の共通化を図る。 ③定期テスト後に教科検討会を開催し、学力定 着度の検証及び教科指導の改善を行う。【年2回実施】	①○生徒の授業満足度調査、授業に対する教員自己考査とも4回実施し、授業改善に役立てた。 ○数学特任講師による若手数学教員への個別指導は効果的であった。 ◇授業満足度調査結果後の各自の授業改善が不十分である。 ○【生徒の授業満足度(満足+どちらかといえば満足の比率)95%】 ○【生徒アンケートでの信頼できる先生がいる(そう感じる)比率80%】 ②◇「理解させるための根強い指導」や英数科と普通科の指導格差、クラス間や教員間の指導の格差改善を さらに進めたい。 ◇普通科の学力向上への取組が必要である。 ③◇教科検討会は、全学年の状況を把握する会議には至らず、学年、コース、担当者による情報交換に留まっ た。 ◇【年1、2回実施】			
	学力の定着と向 上に向けたきめ 細かな指導	①放課後プロジェクトや9時まで学習の一層の 活性化を図る。【9時まで学習参加率70%】 ②予習、復習、宿題の提出・点検指導等の徹底 を図る。【復習テスト年5回実施】 ③英語検定指導等を継続して組織的に行う。 【英検2級以上の合格者220名以上】 ④学力の基礎である国語力(文章読解や表現力) の向上のための取り組みを行う(論理エンジ ンの一層の充実・活用等)。 【論理エンジンの全学年への導入】 ⑤国際教養教育を推進する。(プロジェクトチームの設置等)	①◇放課後プロジェクトは3年の参加は多かったが、全体的参加率は減少傾向にある。 ○9時まで学習は学力の定着、向上に対して一定の効果があった。 ◇【9時まで学習参加率約65%】 ②○復習テストを予定通り実施した。○【復習テスト年5回実施】 ○各教科において、きめ細かな指導が実践された。各学年とも「学習記録表」を毎日記録するよう指導した。 朝学習で英語や文章読解等を実施し、効果があった。1学年は日本語能力検定問題を学習した。 ◇暗記ではなく内容の理解を求めるようなテスト問題の工夫がまだ不十分である。 ③○英検2級以上合格者は目標を上回り大きな成果であった。またGTEC(コミュニケーション能力テス ト)も実施した。これらの取り組みにより英語の学力が向上した。 ○【英検2級以上の合格者227名(内、準1級合格者が12名)】 ④○論理エンジンによる指導を2年生で実施し、国語力向上を図った。模試での成績は向上した。 ◇全般的には依然国語力の向上は課題であり、引き続き国語力向上に努めたい。			
II 進路指導の充 実	進路希望の達成 に向けたきめ細 かな指導	①進路講話や個別面談、総合的な学習等(キャリ ア教育の推進を含む)により目標設定と進路意 識の早期確立を図る。 ②教員の教科・進路指導の力量向上を図る。 ③教科検討会で模擬試験結果の検討を行い、生 徒各個人に対応した指導を行う。 【年2回実施】 ④大学への現役合格達成を図る。【現役合格95%】 ⑤進路希望が達成され、生徒が満足できるよう な進路指導を行う。 【「個々の希望に応じ、充実した進路指導が行わ れている」で、「そう感じている」の比率85%】	①○各学年とも進路情報誌の活用や進路カ・イタ・ダンスを積極的に実施した。1学年は「夢ナビシート」の 活用、2学年は大学教員による学部学科説明会や大学オープンキャンパス参加奨励など進路意識の高揚 を図った。保護者対象進路マネーカ・イタ・ダンスも実施した(2年)。生徒個別面談も積極的に実施した。 ○国際教養コースでは、外部講師による講話や関係大学訪問等により、国際的な視野の拡大や進路の明確化が 促進された。また、留学生2名の受け入れにより、外国文化への興味関心、異文化理解が深まった。 ②○教科・進路指導力の向上に向け、各教員が個々に研鑽に努めた。 ③○教科での模擬試験結果の検討会は定期テスト後の検討会とあわせた形で実施したが不十分であった。 ◇【年1、2回実施】 ◇【現役合格93%】 ④◇大学現役合格率は93%であった。 ⑤◇生徒の進路指導に対する満足度は良好であった。 ◇【生徒アンケートにおける「個々の希望に応じ、充実した進路指導が行われているか」で、「そう感じてい る」の比率84%】			
	難関大学等の合 格に向けた指導	①難関大学を含めた国公立大学及び難関・中堅 私立大学に合格できるような学習・進路指導を 推進する。大学合格目標を以下に設定する。 【東大、京大、国公立大医学部計3名以上。 旧帝大計10名以上、静大・静岡県大・静岡 文芸大計30以上、国公立大学計80名以上、 早大・慶大・上智大計10名以上、MARC H・東京理科・関関同立計80名以上合格】 ②東大、京大等の入試問題研究を行い、合格へ 向けての効果的な指導を研究する。また、大 学入試対策セミナーに積極的に参加し、その 研修内容を職員間で共有する。 ③新大学入試制度に向けての研究・研修を行う。 【参加教員②と③で合計10名】 ④3年生対象に、入試実力養成のための放課後 特別講座を実施する。	①○各学年とも模試(2、3年生は難関大学模試などを含め)を積極的に活用し、学力の養成を図った。 ○〈大学合格状況〉 教員の熱心な指導により、東大、京大、早大、慶大等を含む難関国公立大・私立大に多数合格した。国公立 大、中堅私立大等にも多数合格した。 ○【東大、京大、東工大等旧帝大等7名、静大・静岡県大・浜松医大・静岡文芸大の県内大学計26名を含 む、国公立大に74名合格。早大6名、慶大3名、上智2名、MARCH・東京理科・上智・ 関関同立合計90名合格】 ○模試成績は全学年とも良好であった。特に2、3年は良好であった。 ②○各教員が夏休みに東大、京大等の入試問題を研究した。 ③○夏休み等の大学入試教員セミナーには9名参加した。また、新大学入試研修セミナーに1名参加した。 ◇大学入試教員セミナーに参加する教員が固定化してきたのでより多くの教員が参加するようにしたい。 ○【参加教員延べ10名】 ④○放課後、3年生の模試上位層に英語特別講座を週1回実施した。また、数学等、放課後に入試対策として 個別指導を行った。英語、数学の個別指導は大変効果があった。			

重点目標	評価項目	具体的方策又は評価項目を評価する具体的指標【 】は数値的目標	27年度実施結果(成果は○、改善すべき事項は◇) ※丸数字は左欄の丸数字の項目に対応している。	自己評価	学校関係者評価	備考 (学校関係者の意見、提言等)
Ⅲ 心豊かでさわやかな生徒の育成	社会性や道徳心の育成	①礼節を重視し、様々な場面で、マナーや社会的規範意識を育成する。正門一礼や予鈴黙想の励行なども継続して指導する。 ②校内外の美化や教室等の整理整頓に対する指導の徹底を図る。 ③交通マナーの指導を強化し、地域住民の苦情をなくすとともに交通事故防止を図る。 【交通事故10件以内】 ④德育を強化し、思いやりの心を育成するとともに問題行動の発生を防止する。 ⑤生徒の様子を観察、生徒面談やいじめ調査等を活用して、いじめ行為の防止に取り組む。⑥インターネットなどSNSについての啓蒙を行い、問題発生を防止する。 【いじめ調査年3回実施】	①○礼節指導を継続して指導した。挨拶はかなり良好である。 ◇登校時の靴の違反(無許可のバッグやアクセサリ装着等)や、商店での振る舞いなど、校外での社会道徳や一般常識の一層の向上が必要である。 ②○サッカー部、陸上部、バレー部、野球部等の自主的な清掃活動(早朝等)により、校地や学校周辺の環境美化ができた。 ◇ホームルームで清掃活動指導を行ったが、指導しきれない部分もあった。 ③○野球部の街頭指導や交通安全委員による街頭交通指導は交通安全推進に貢献した。 ◇交通マナーについてホームルーム等で繰り返し指導したが、地域住民から交通マナーに対する苦情が折り寄せられた。 ◇【交通事故13件】 ◇自転車施設点検を10回実施したが、施設率は向上した。 ④⑤○いじめ調査は2回(7月、12月)実施したが、実施時期を早めたことにより、早期対応ができた。いじめに関する講話や調査、イエローカードの活用はいじめの防止に役立った。 ⑥◇SNSによる生徒間トラブルが1件発生し、指導を行い解決した。 ○【いじめ調査年2回実施】			
	基本的な生活習慣の確立	①欠席や遅刻等の減少を図る。インフルエンザについては感染防止対策を徹底する。 ②正しい身だしなみの指導を徹底する。 【学年全体風紀指導年6回実施】 ③基本的な生活習慣の指導を職員の共通理解のもとに実施する。 ④校則遵守の徹底を図る。	①◇生徒、教職員ともにインフルエンザ感染防止が不十分だったため、2月に患者が急増した。 ◇遅刻が減少するには至らなかった。 ②○学年風紀指導を学年団の意思統一のもとで7回実施した。服装面で大きな乱れもなく、スカート丈についても良好であった。 ○【学年全体風紀指導年7回実施】 ③○基本的な生活態度はある程度確立されていた。 ○乙女塾の実施等、女子指導は充実してきた。 ◇さらに職員の指導の共通性を図りたい。 ④○生徒は校則をおおむね遵守していた。			
	部活動の充実	①学習と部活動の両立を一層推進しつつ、生活面での指導も強化することにより、心身を錬磨し、自律的な精神と協調性を養う。 【部活動加入率80%以上】 ②県大会や全国大会への出場及び各大会での上位進出を果たす。 【県大会出場～全ての部、全国大会出場～4部】	①○多くの生徒が部活動に加入している。 ○【部活動加入率約81%】 ○各部のテスト前の集団学習が活発になってきた。 ○各部とも積極的な活動が行われ、対外活動だけでなく、服装、部室の美化等に大きな変化が出てきた。 ○試合の結果のみならず、各部活動を通じて人間形成にしっかりとした取組が出来るようになってきた。 ○部室点検を積極的に実施した。 ◇部室等の施設の徹底が不十分であった。 ②○バスケ部、陸上部、棋道部、射撃同好会が全国大会に出場した。野球部が東海大会に出場し、バレー部も私学東海大会に出場した。サッカー部、柔道部、吹奏楽部等も県大会で活躍した。ほとんどの部が県大会に進出した。 ○【県大会出場～ほとんどの部、全国大会出場～4部】			
Ⅳ 広報・渉外活動の充実	効果的な広報活動による学校理解の促進	①広報誌の発行、報道機関への周知等様々な手段を通して、本校教育に対する保護者や地域社会の理解を深める。 ②ホームページ(HP)の更新を積極的に行い、効果的な情報発信を行う。 【月当たり訪問者30000以上、直帰率40%未満】 ③地域の自治会等への情報提供や学校行事への招待等を積極的に行い、学校理解の促進と広報の推進を図る。	①○地区会、学校広報誌「初心」発行など予定通り実施した。 ○マスコミによる情報発信も積極的に実施した。 ○新たに部活動見学会(運動部、文化部とも)を秋に実施した。 ○地区会で出された質問や要望への回答を文書で配布した。 ○バスケ部、棋道部、野球部、射撃同好会等の新聞やテレビ等での報道により学校の周知が進んだ。 ②○HPの訪問者数が大幅に増えた。HPの更新を積極的に行い、内容の工夫も行った。 ◇直帰率はさらなる改善が必要である。 ◇【月当たり平均の訪問者29987人、直帰率44%】 ③○入学式、卒業式、文化祭、体育大会に自治会役員を招いた。			
	積極的な渉外活動の実践	①小中学校への積極的な学校訪問等により募集の拡大を図る。併せて、入学者の増加に有効な方策を具体的かつ速やかに検討・実施する。 ②県内中学生への募集を積極的に行い、引き続き東西部、中部近隣からの入学者を確保する。 ③県外募集の充実を図り、有為な生徒の確保に努める。 【学則定員の確保】	①②○積極的に募集の拡大を図った。一日体験参加者は生徒1256人、保護者600人、合計1856人であった。参加者の利便性を考え、インターネット申し込みを導入した。 ○志摩・小笠・静岡地区の中学校67校への訪問を各4回行った。 ○高校入試の合格者数は、普通科が819人(単願123)、英数科が858人(単願48)、合計1677人(単願171)であったが、単願者が増加した。 ③◇福岡・札幌入試は、受験者が145人(昨年比24人増)であり、進学者は3名であった。 ◇【入学者279名、学則定員に81名不足】			
Ⅴ 教育施設・設備の活用	安全で快適な教育環境の実現	①学習活動や部活動が安全かつ快適に実施できるよう常に配慮する。 ②施設・設備のより有効な活用を図るとともに、机・椅子の整備等、教育環境の整備に努める。 ③電気、紙等の節約を励行し、経費と資源の有効活用を心がける。 ④地震発生時の避難や防災に関する訓練等を効果的に実施し、生徒の安全を確保する。 ⑤原子力災害に対する避難計画を作成する。 【防災訓練年2回実施】	①○毎火曜日早朝に理事点検を実施し施設の安全を確保した。 ○◇清掃活動に力を入れた。改善された点と不十分な点の両面が見られた。 ◇校舎施設について色々な方策を行ったが徹底しなかった。 ②○剣道部の床の修繕を実施した。 ◇机、椅子、黒板等の劣化が見られる。継続的な更新が必要である。 ③○消灯、空調のスイッチオフ等の節電や、紙の節約などはまだ十分とは言えない。 ④○5月に防災避難訓練、8月に防災学習を実施し、防災意識を高めた。 ○防災マニュアルを常時活用できるように生徒手帳に添付した。 ⑤○原子力災害に対する避難計画は未作成であった。(藤枝市の指針が未発表のため)			